名 誉 会 員 追 悼

故　名誉会員　**関田貴司　氏**

一般社団法人日本鉄鋼協会名誉会員、元JFEスチール株式会社代表取締役副社長　関田貴司氏は、令和2年4月10日、逝去されました。享年69歳。逝去の報に接し謹んで哀悼の辞を申し上げます。

氏は、昭和50年3月東京工業大学大学院理工学研究科金属工学専攻修士課程を終了後、川崎製鉄株式会社に入社、平成15年JFEスチール薄板セクター部長、平成17年常務執行役員、平成21年専務執行役員スチール研究所長、平成24年代表取締役副社長に就任し、我が国の鉄鋼業の薄板製造技術、地球環境保全技術の進歩発展に貢献し、平成25年JFEミネラル代表取締役社長と、平成28年相談役就任と各要職を歴任されました。

氏は、川崎製鉄入社後、20年有余年にわたり、薄板部門の業務に従事し、数々の技術開発により、業界の先駆者として薄板商品、製造の革新の道を切り開かれてきました。薄板分野においては、低鉄損ー高透磁率電磁鋼板の開発による家電製品の省エネルギー化、ナノレベルで組織制御する高張力鋼延性鋼板や合金化溶融亜鉛めっき技術の開発による自動車の軽量化に貢献されました。

氏は、本会の運営にも尽力し、評議員・理事を歴任すると共に、平成20年より2年間本会副会長を務められました。また、2010年から2年間は、日本鉄鋼連盟環境・エネルギー政策委員長として、政策課題にも取り組み、わが国鉄鋼業の進歩発展に貢献いたしました。

氏は「風林火山」を行動指針とされ、就かれていた様々な立場において状況を冷静に判断し、的確な指示をなされ、部下の指導においてもその姿勢を貫かれておりました。また、現場に足繁く顔を出し会話し、公私にかかわらず「人と人とのつながり」「信頼関係」を大切にする姿は、和を尊ぶ氏の考え方の基本の現れでした。また、四国のお遍路様巡りで一日中歩くことにより心身共に鍛え自己研鑽する等の行動力と姿勢は、後進の良き手本となっております。仕事を離れた部下との交流にも積極的で、その人望と信頼は揺るぎないものがありました。

そんな氏は「人は石垣、人は城、人は堀、情けは味方、仇は敵なり」の考え方のもと、人材育成を重んじ優秀な人材を育成すべく力を注がれておりました。

このように氏は、わが国の鉄鋼業と本会の発展に対する貢献が極めて大きく、これらの功績に対して、本会から平成27年に渡辺義介賞を受賞、平成31年は名誉会員に推挙され、本年3月に製鉄功賞を受賞したばかりでのご逝去となりました。

氏が鉄鋼技術と本会の発展に尽くされた多大な業績を偲び、会員一同、心からの哀悼の意を捧げ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

令和2年7月

日本鉄鋼協会　会長　小野山　修平